

## 平成 26 年度 研究成果報告書

### Research Achievement Report FY2014

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパ I
氏名 Name	岡本 真理
専門分野 Academic Field	ハンガリー言語社会論

主たる研究テーマ Principal Research Subject	近代ハンガリー国民運動と国民劇場
<p>ハンガリーの国民言語運動を劇場の創立に関わる運動を中心に検討した。ハンガリー語の常設劇場は1837年に設立され、ハンガリー語演劇のための初の常設劇場として、近代初期の国民的演劇・文学そして音楽の創作において中心的役割を果たすこととなった。しかし、そこに至るまでは紆余曲折の道のりで、俳優や作家・詩ら多くの先駆的な活動家らに支えられた。また、創設から10年後には1848年革命と独立運動という大きな転換期を迎えた。近代前半の演劇運動、特に18世紀末から活発化した旅回り劇団の活動と、国民劇場創設の手続き、そして劇場設立当初の10年余りの国民劇場の変化の3点から、近代前半における国民演劇運動の興隆を分析した。また、国立劇場が創設された1837年から独立戦争が終了する1849年までの劇場の演目を調査することにより、以下のことが明らかになった。①演目については、劇場設立当初はほとんどがフランスまたはドイツの喜劇であったが、10年間でハンガリー語のオリジナル作品が大幅に増え、上演回数では約5倍となった。また、「民衆もの」と呼ばれる社会派喜劇のあらたなジャンルが確立され、Szigligetiを中心にハンガリー人作家の活躍が目覚ましくなった。②第1世代の俳優陣は劇場のなかった時代の旅回り役者が多く、俳優が監督・脚本・作曲から外国作品の翻訳まですべてをこなし、毎日のように舞台に登場するなど、ある意味過酷な状況にあった。③革命の勃発後、プログラムは「ハンガリー国民意識」を高揚させるものがしばしば選ばれ、繰り返し上演された。また、戦争下で劇場の経営は厳しく、主役級俳優の多くが革命政府とともにデブレツェンに移動するなど流動的な状況が続いた。また、戦争敗北の前後の数カ月にわたり、国民劇場で3回に1回の割合でドイツ語劇が上演されたが、その背景には政治的理由よりも、むしろペシュトのドイツ語劇場の消失という物理的理由があった。以上の成果について、日本ウラル学会で研究発表を行い、現在は論文にまとめる段階にある。</p>	